

JBN REPORT

Japan Builders Network

2019 vol.31
1月号

●第30回住生活月間中央イベント「スーパーハウジングフェアin栃木」



高円宮妃殿下にご説明する大野会長

昨年10月13日土曜日と14日日曜日の両日にわたり、第30回住生活月間の中央イベントとなる「スーパーハウジングフェアin栃木」(マロニエプラザ大展示場)が開催され「どう建てる? 家族のための安心住宅~省エネ性能と耐震性能の高い家~」のテーマのもとJBNも出展いたしました。テーブルカットセレモニーにご臨席の高円宮妃殿下久子様にJBNブースをご視察賜り、大野年司会長からJBNの役割、全国に広がる工務店ネットワーク、災害時の木造応急仮設住宅建設などについてご説明申し上げました。

引き続き宇都宮グランドホテルで開催された「合同記念式典」では、高円宮妃殿下のご臨席、石井国土交通大臣をはじめご来賓出席のもと、第30回住生活月間功労者としてJBN松井進理事(株式会社サン工房取締役会長)に国土交通大臣賞が、JBN加藤信芝理事(株式会社加藤住建代表取締役)に住宅局長賞が授与されました。

●西日本豪雨災害義援金の贈呈



菊池会長から神野副知事へ贈呈

講習会スケジュール

- | | |
|--|---|
| ① 長期優良住宅基礎セミナー
(基礎～申請・サポート・設計)
連携団体を通じて、希望都道府県で開催予定。 | ⑤ 建設キャリアアップシステム説明会
2月・3月に6都市で開催予定 |
| ② リノベーション活用セミナー
岩手・福井・新潟で開催予定。 | ⑥ 実例から学ぶ「承継者」への引継方セミナー
2月8日(金)東京 2月13日(水)福岡
2月19日(火)大阪 2月21日(木)名古屋
2月26日(火)岡山 仙台開催予定
(講師秋野卓生弁護士) |
| ③ 木造住宅の「耐震診断/耐震補強設計/補強工事」
勘所研修会
3月に3県で開催予定 | ⑦ 増改築相談員講習会(新規・更新)
紛争処理支援センター共催
1月～2月に6都市で開催予定 2月7日(木)岐阜 |
| ④ 木造耐火構造仕様研修会
「耐火構造の構造方法を定める件の一部を改正」を学ぶセミナー
3月11日(月)東京 3月15日(金)福岡
3月19日(火)大阪 3月20日(水)名古屋 | 各記事の詳細はJBNホームページをご覧ください
問い合わせ:事務局・島田／坂口 |

JBNは様々なご相談(技術、法律、支援等)をお受けしております。

ホームページ(トップページの最下欄)のお問合せフォームをご利用いただけ、下記へお問合せください。

JBNの基本理念
「私たちJBN・全国工務店協会は、全国の地域工務店とその業界団体の持続的発展に尽くし、地域の住生活環境の向上を通して社会に貢献します。」



新年のごあいさつ

新年あけましておめでとうございます

私たち地域工務店を取り巻く環境が大きく変化する中で、(一社)JBN・全国工務店協会は設立10年の区切りを迎え、新たな10年にに入りました。長期優良住宅事業も10年の節目となり、耐用性のある良質な住宅ストックを造り、適切に維持管理して市場を通じて活用する「ストック型社会」への移行も始まろうとしています。昨年は、(一社)住宅生産団体連合会に団体会員として加わり、日本の住宅政策や制度をより身近に議論できる立場となりました。また、住宅リフォーム事業者団体としての登録後、省エネ、耐震性の向上、長寿命化など地域のお客様のニーズにきめ細かくお応えするために、必要な委員会や講習会等により会員工務店のサポートに注力して参りました。

さらに東日本大震災や熊本地震の復興に続き、昨年、大阪北部地震や西日本豪雨、北海道胆振東部地震と相次いだ災害には、(一社)全国木造建設事業協会*として地域工務店・大工の力を結集して取り組み、ともに新たな一步を踏み出しましょう。

広島、岡山、愛媛三県では木造応急仮設住宅260棟弱を建設致しました。大型の自然災害が頻発する今日、地域工務店がその強みを活かし、いち早く応急修繕や木造応急仮設住宅等の建設に取り組むことは、自然なことであり地域社会に貢献する大切な一步であると思います。

このように地域工務店は地域社会から頼られる存在ですが、その担い手となる大工の減少は喫緊の課題です。昨年、全国6ブロックの会議において伺った切実な声に応えるためにも、現在、大工育成等に様々な可能性を模索しつつ重点的に力を注いでおります。

これらの様々な課題に、JBNは皆様の力と知恵を集め、また、国をはじめ安心・安全・快適な居住環境の整備に取り組む諸団体と連携して、次の10年を展望しながら取り組んで参ります。そのことで、会員企業の発展を現実のものとし、かつ「地域工務店の全国組織」として、しっかりとその役割を果たしてゆく所存です。次の10年に向け、ともに新たな一步を踏み出しましょう。



頼れる地域工務店のための
次の10年向け新たな歩みを

国産材委員会

工務店の実務に役立つ国産材の知識と伝え方を提供

(木村司委員長、田邊喜範副委員長)

どうしたらお客様に国産材の良さを感じていただけるか。今年度は知識提供だけでなく伝え方をテーマに年4回の研修会を実施しています。2月13日には恒次祐子准教授に「東京大学で学ぶ!木の良さをデータで表す」をテーマにお話しいただきます。お客様に木の良さをデータで表す実例を学んでいただき、明日からのビジネスにぜひお役立てください。



既存改修委員会

住宅の維持管理・改修技術の向上と普及

(鈴木晴之委員長、大瀧浩司副委員長、竹脇拓也副委員長)

ストック社会における良質な住宅の維持保全と改修・改善の提案は、地域工務店の重要な役割と認識し、住まい手から信頼され、安心され、評価され報われる仕組みを構築することを活動の基本としています。既存住宅の改修に関する情報収集や補助事業に取り組み、マニュアル集、指針事例集などをまとめ、全国各地で講習会を開催しています。会員間の交流や他団体との意見交換なども積極的に行ってています。



環境委員会

工務店が取り組む環境を考える

(久原英司委員長、渡邊泰敏副委員長、足立操副委員長、芳西直史副委員長)

環境とはとても範囲が広く、省エネ、ZEH、創エネ、低炭素化等だけではなく、長く住み続けられる家造り、林産地連携による森林保護など様々な課題があるため多方面からの意見を聞きながらの年6回の講習会を委員会の枠を越えてJBN会員オーブン参加で行なっています。又、新築住宅着工数がさらに減少し、工務店の淘汰が進むといわれる中、国交省、環境省、経産省は揃って省エネルギー住宅に取り組んでいます。地域工務店もこの状況に適切に対応することが求められており、それをサポートするために活動しています。



中大規模木造委員会

地域工務店がつくる中大規模木造建築

(青木哲也委員長、大野哲矢副委員長)

非住宅の中大規模木造建築物の設計及び施工等の取り組みを考えているJBN工務店が、国産材等を用いて手掛けられるようにする為の実践的な体制整備を研究しています。



施工体制に於いては、JBN工務店同士の連携の他、地場ゼネコン、関連団体との連携を強化します。設計及び受注体制に於いては(一社)中大規模木造プレカット技術協会等と連携しながら、設計事務所等との連携・意見交換等を行い、ノウハウを蓄積していきます。

大工育成委員会

工務店の未来を左右する大工の育成

(杉山真一委員長、芳賀一夫副委員長)

木造住宅の担い手である大工就業者数は、平成27年に約35万人と、この20年間で半減し深刻化する一方です。JBNとして大工の減少を食い止め、少しでも増やすために「採用と育成」を一体としてとらえ取組みを進めています。地域における育成委員会の設置を進め、ポリテクセンターとの連携で座学と実技を提供し、指導棟梁のための研修会などを開催しています。2月6日水曜には東京で全国セミナーを開催し、その成果を報告します。



次世代の会

地域で必要とされる工務店になるために

(小林弘典会長、青木哲也副会長、池田浩和副会長、小林稔政副会長、深澤裕一郎副会長、大瀧浩司副会長)

次の工務店業界を担う実務者が集い、これから地域に必要とされる工務店経営のために、会員同士が意見交換し、その全国に広がるネットワークを醸成します。また、関係機関・団体などとも意見交換を行い、工務店の未来を考えます。現在、地域ブロックごとに次世代の会が生まれつつあります。どうぞ、お気軽にご参加ください。



女性活躍の会

工務店の女性にできること

女性だからできること、女性ならではの感性、気配りや心配りが信用や信頼につながることに注目し、工務店に所属する女性個々の持つ力をこれまで以上に活用するため、情報交換会・勉強会を全国で展開しています。5つのパートからなる「暮らしのパーソナルアシスタント勉強会」「スキルアップ勉強会」「情報交換研究会」を通じて共に考えましょう。JBN工務店会員の女性であればどなたでも参加できます。



情報調査広報室

工務店が知っておくべき制度や施策の今後

(池田浩和室長、小林稔政副室長、青木哲也副室長)

国や地方行政、住宅関連団体や市場など外部からの情報を収集し、分析します。それらを工務店経営に活かせるよう、会員に伝えます。現在は、長期優良住宅制度の見直し、省エネ基準適合義務化への課題、ZEH補助事業など、地域工務店にとって影響の大きい制度や施策などを中心に取り組んでいます。



「震度7でも住み続けられる家」を

「一般社団法人富士山木造住宅協会」

静岡県富士市の「建築工房わたなべ」は1990年に設立。「楽しくて、自由で、かしこい家づくり」をモットーに、温かみのある住宅づくりを続けてきました。「ようやく自分が本当にいいと思える家をお客様に提案できるようになりました」と語るのは代表取締役の渡邊泰敏さん(57)。富士山の裾野で育ったヒノキを使いながら、耐震と断熱性能にここんこだわる。

会社設立5年後に発生した阪神・淡路大震災に衝撃を受けた。東海地震を警戒せねばならない地域だからこそ、「耐震等級3」の住まいづくりを譲らない。同時に断熱、通風、日射遮蔽など「パッシブデザイン」を積極的に取り入れる。こうやって、「万が一災害に襲われても安全であったかい家」、「震度7が起っても住み続けることができる家」建築をめざしてきた。

JBN環境委員会副委員長や、富士山周辺地域の工務店組織でつくるJBN連携団体「一般社団法人富士山木造住宅協会」の森林認証材委員会トップも務める。委員会の仕事は、持続可能な管理の認証も受けた富士山麓のヒノキについて、「富士山桧(ひのき)」としてブランド化を進めること。その先頭に立ち、柱材を中心に、施工住宅の大部分に富士山桧を使う。ひとつには「材木の地産地消

富士ヒノキにもこだわり

「建築工房わたなべ」

を進める」狙いからだが、強度や含水率などが1本ずつ確認されていることもメリットという。「僕が求める耐震性能を満たすかどうかすぐ分かりますから」。地元のブランド材を使っても施主側のコスト負担はわずかなことなどを、もっとアピールして普及拡大を図る。

こうした情報発信のため、1999年と早い時期に自社サイトを立ち上げた。一方で、2018年11月号で141号となった月刊誌「心 ほっこり」発行も続ける。「紙媒体のぬくもりがとっても好きなんです」。A4版約20ページで、毎月約750部刷り、これまでの顧客や見込み客、取引先などに郵送する。タイトルは「心がほっこりするやさしい家を建て、長いおつきあいをさせていただく」という会社のモットーから。毎号のトップページは「ひげ日記」。季節や直近のニュースなどに即して渡邊さん自らが、読み手に語りかけるように執筆する。

ちなみに東名高速道路近くの本社社屋入り口には、全長3.6メートル、鉄骨骨組みFRP製のゴリラの像が据えられている。「性格は温和で家族を大事にする」というゴリラの習性を知った渡邊さんが、「様々な災害、外敵から命や財産を守る建物を造る」という決意も込めて据えた巨大なマスコットだ。



ゴリラ像が目印の本社社屋



渡邊泰敏代表取締役



協会が続ける、地元の人に富士山裾野の森に親しんでもらうツアー